

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成27年2月12日
【四半期会計期間】	第63期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第62期 第3四半期連結 累計期間	第63期 第3四半期連結 累計期間	第62期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (千円)	17,126,330	17,164,646	22,946,745
経常利益 (千円)	1,876,350	1,598,721	2,361,986
四半期(当期)純利益 (千円)	1,023,694	942,293	1,278,158
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,021,979	968,754	1,270,591
純資産額 (千円)	7,800,733	8,602,945	8,049,250
総資産額 (千円)	14,573,427	14,574,972	14,557,593
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	98.68	90.84	123.21
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.5	59.0	55.3

回次	第62期 第3四半期連結 会計期間	第63期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日	自平成26年10月1日 至平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	51.19	51.03

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは、平成26年9月に健康食品事業の再構築を行うため、純藍株式会社（セグメント名称「その他」）を設立いたしました。また、前連結会計年度末において清算中でありました株式会社国武商店（セグメント名称「販売子会社」）は、平成26年7月に清算終了いたしました。この結果、平成26年12月31日現在では、当社グループは、当社と子会社19社（うち非連結子会社1社）により構成されております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における事業環境は、前連結会計年度の出雲大社及び伊勢神宮の遷宮効果及び消費税増税前の駆け込み需要の反動減に加え、物価上昇及び税負担感の増加に伴う購買意欲の減退、更に大雨や台風による天候不順の影響を受けるなど、厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、既存ブランドの育成及び主力商品の強化はもとより、持続的な成長に向け、『ニューコンセプトメーカー』をテーマに、新商品・新店舗・新ブランド創り、新ビジネス、海外展開を強化ポイントに取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、首都圏での展開強化などにより17,164百万円（前年同期比0.2%増）となり、僅かながら前年同期を上回ったものの、利益面では、売上高の伸び悩みにより人件費の増加を吸収できなかった結果、営業利益は1,578百万円（前年同期比15.2%減）、経常利益は1,598百万円（前年同期比14.8%減）、四半期純利益は942百万円（前年同期比8.0%減）となり、ともに減益となりました。

なお、健康食品事業の再構築に向け、平成26年9月に純藍株式会社（東京都港区）を設立いたしました。また、清算中でありました株式会社国武商店（香川県仲多度郡）は平成26年7月に清算終了し、通販基幹業務システムサービス事業を営む子会社の株式会社ジュテックス（東京都港区）は、事業中止に伴い、同年12月をもって解散いたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、「ジャパルシー」について量的な重要性が乏しくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しており、以下の記載における前第3四半期連結累計期間との比較は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき組み替えた数値を使用しております。

ケイシイシイ

「ルタオ」を擁するケイシイシイは、主力商品「ルタオプレミアまあある」の道内での卸展開強化及び道内店舗及び外商部門の販売力強化に注力いたしました。また、平成25年7月に東京・表参道に立上げましたアントルメラッセ専門店「GLACIEL（グラッセル）」は、認知度の向上に向け、通販・催事展開など販売チャンネルの拡大に努めました。

その結果、売上高は、5,906百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は590百万円（前年同期比4.9%減）となりました。

寿製菓

寿製菓は、新商品開発及び販路の拡大に注力したものの、出雲大社の遷宮効果の反動減による山陰地区の低迷などにより、売上高は5,979百万円（前年同期比5.8%減）となり、営業利益は563百万円（前年同期比30.1%減）と、減収・減益となりました。

販売子会社

販売子会社は、関西地区では、新商品「九条ねぎ京えびせんべい処」及び「神戸三宮フレンチトーストラングドシャ」などの新商品の拡販により、概ね堅調に推移いたしました。一方、東海地区は、伊勢神宮の遷宮効果の反動減で苦戦いたしました。その結果、売上高は3,402百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益は179百万円（前年同期比19.7%減）となりました。

九十九島グループ

九十九島グループは、平成25年6月に福岡・大名に立上げましたフレンチトースト専門店「Ivorish（アイボリッシュ）」の2号店を平成26年4月に東京・渋谷にオープンするなど新業態店の認知度拡大に注力いたしました。

その結果、売上高は、2,589百万円（前年同期比11.5%増）、営業利益は138百万円（前年同期比7.2%減）となりました。

但馬寿

但馬寿は、新商品開発に注力した一方、伊勢神宮の遷宮効果の反動減に伴うグループ向け売上の低迷などにより、売上高は810百万円（前年同期比11.4%減）、営業利益は44百万円（前年同期比52.4%減）となりました。

シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しておりますシュクレイは、東京駅及び羽田空港を中心に「ザ・メープルマニア」をはじめとする各ブランドの認知度向上に向け、販売力の強化に努めました。その結果、売上高は、2,065百万円（前年同期比18.3%増）となり、営業利益は129百万円（前年同期比100.4%増）と、増収・増益となりました。

なお、平成26年7月に「ルミネ大宮店」、同年10月に「築地ちとせ本店」を退店した一方、同年9月に新ブランド「東京フィナンシェ」を東京駅構内に、また、ルミネ立川では同年6月に改装のため一時休業した「コートクール」を同年10月に改装オープンにより再開したほか、同時に「東京ミルクチーズ工場」を新規に加え2店出店いたしました。

その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業及び通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。健康食品事業は、平成26年9月をもって会員制直販事業を中止し、通販基幹業務システムサービス事業は、事業中止に向け既存会員の他社サービス等への移行を進めた結果、売上高は20百万円（前年同期比88.0%減）となり、営業損失は52百万円（前年同期は営業損失147百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、14,574百万円となり、前連結会計年度末と比べ17百万円増加しました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加（445百万円）、商品及び製品の増加（189百万円）、現金及び預金の減少（731百万円）などの要因によるものです。

負債は、5,972百万円となり、前連結会計年度末と比べ536百万円減少しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加（233百万円）、長期借入金の減少（204百万円）、未払法人税等の減少（536百万円）、賞与引当金の減少（189百万円）などの要因によるものです。

純資産は、8,602百万円となり、前連結会計年度末と比べ553百万円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益の計上による増加（942百万円）、配当金の支払いによる減少（414百万円）などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.7ポイント増加し、59.0%となり、1株当たりの純資産は829円33銭となりました。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、36,781千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,373,840	10,373,840	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	10,373,840	10,373,840	-	-

(注) 当社株式は、平成26年4月3日をもって、東京証券取引所市場第二部より同市場第一部銘柄に指定されております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	-	10,373,840	-	1,217,800	-	550,269

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしておりません。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 10,372,000	103,720	-
単元未満株式	普通株式 1,440	-	-
発行済株式総数	10,373,840	-	-
総株主の議決権	-	103,720	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数60個が含まれております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	400	-	400	0.00
計	-	400	-	400	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,690,554	1,958,624
受取手形及び売掛金	2,489,507	2,934,576
商品及び製品	563,946	753,452
仕掛品	40,319	25,737
原材料及び貯蔵品	347,481	386,930
その他	474,954	506,616
貸倒引当金	26,348	29,220
流動資産合計	6,580,413	6,536,715
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,183,184	3,126,649
機械装置及び運搬具(純額)	735,404	811,573
工具、器具及び備品(純額)	246,448	2,245,180
土地	2,500,667	2,500,667
リース資産(純額)	10,754	7,993
建設仮勘定	7,531	46,983
有形固定資産合計	6,683,988	6,739,045
無形固定資産	105,678	109,519
投資その他の資産		
その他	1,207,509	1,206,120
貸倒引当金	19,995	16,427
投資その他の資産合計	1,187,514	1,189,693
固定資産合計	7,977,180	8,038,257
資産合計	14,557,593	14,574,972
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	790,630	1,024,289
短期借入金	1,650,000	1,650,000
1年内返済予定の長期借入金	355,628	291,870
未払法人税等	677,175	140,666
賞与引当金	412,990	223,016
その他	965,975	1,154,258
流動負債合計	4,852,398	4,484,099
固定負債		
長期借入金	575,185	370,682
退職給付に係る負債	846,071	890,634
その他	234,689	226,612
固定負債合計	1,655,945	1,487,928
負債合計	6,508,343	5,972,027

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	5,489,008	6,016,364
自己株式	421	543
株主資本合計	8,029,548	8,556,782
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,702	46,163
その他の包括利益累計額合計	19,702	46,163
純資産合計	8,049,250	8,602,945
負債純資産合計	14,557,593	14,574,972

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	17,126,330	17,164,646
売上原価	8,011,471	8,114,728
売上総利益	9,114,859	9,049,918
販売費及び一般管理費	7,252,960	7,471,540
営業利益	1,861,899	1,578,378
営業外収益		
受取利息	264	189
受取配当金	2,934	3,311
受取地代家賃	12,086	12,034
その他	31,353	31,997
営業外収益合計	46,637	47,531
営業外費用		
支払利息	22,775	16,304
その他	9,411	10,884
営業外費用合計	32,186	27,188
経常利益	1,876,350	1,598,721
特別利益		
固定資産売却益	-	354
特別利益合計	-	354
特別損失		
固定資産売却損	76	-
固定資産除却損	25,064	8,953
減損損失	-	11,513
特別損失合計	25,140	20,466
税金等調整前四半期純利益	1,851,210	1,578,609
法人税等	827,516	636,316
少数株主損益調整前四半期純利益	1,023,694	942,293
四半期純利益	1,023,694	942,293

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,023,694	942,293
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,715	26,461
その他の包括利益合計	1,715	26,461
四半期包括利益	1,021,979	968,754
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,021,979	968,754

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

前連結会計年度に連結子会社でありました株式会社国武商店は平成26年7月に清算したため、第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。ただし、清算終了までの損益計算書は連結しております。

また、第2四半期連結会計期間より純藍株式会社を設立し、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形	- 千円	542千円

2 圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れにより有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
工具、器具及び備品(純額)	- 千円	2,810千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	446,759千円	470,437千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	311,204	30.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	414,937	40.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シユクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	5,082,889	4,250,609	3,538,601	2,107,311	232,743	1,746,738	16,958,891
セグメント間の内部 売上高又は振替高	686,124	2,095,248	-	215,424	681,770	-	3,678,566
計	5,769,013	6,345,857	3,538,601	2,322,735	914,513	1,746,738	20,637,457
セグメント利益 (は損失)	620,827	806,788	223,653	149,635	93,126	64,738	1,958,767

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	167,439	17,126,330	-	17,126,330
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,053	3,679,619	3,679,619	-
計	168,492	20,805,949	3,679,619	17,126,330
セグメント利益 (は損失)	147,410	1,811,357	50,542	1,861,899

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額50,542千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額474,533千円、セグメント間取引消去額11,593千円、たな卸資産の調整額40,412千円、各報告セグメントに配分していない全社費用395,172千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	5,167,545	3,946,530	3,400,364	2,347,812	217,526	2,065,824	17,145,601
セグメント間の内部 売上高又は振替高	738,467	2,033,037	1,935	241,352	592,549	-	3,607,340
計	5,906,012	5,979,567	3,402,299	2,589,164	810,075	2,065,824	20,752,941
セグメント利益 （は損失）	590,140	563,953	179,624	138,873	44,307	129,763	1,646,660

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	19,045	17,164,646	-	17,164,646
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,104	3,608,444	3,608,444	-
計	20,149	20,773,090	3,608,444	17,164,646
セグメント利益 （は損失）	52,038	1,594,622	16,244	1,578,378

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。

2. セグメント利益（は損失）の調整額 16,244千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額479,477千円、セグメント間取引消去額16,144千円、たな卸資産の調整額 42,835千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 469,030千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益（は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より「ジャパルシー」について量的な重要性が乏しくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、前第3四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「シュクレイ」セグメントにおいて、店舗の閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産に係る減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は11,513千円であります。

(金融商品関係)
著しい変動がないため、記載していません。

(有価証券関係)
著しい変動がないため、記載していません。

(デリバティブ取引関係)
該当事項はありません。

(企業結合等関係)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)
1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	98円68銭	90円84銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	1,023,694	942,293
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	1,023,694	942,293
普通株式の期中平均株式数(株)	10,373,476	10,373,373

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

2【その他】
該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月2日

寿スピリッツ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 憲次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。